

# HAJIMENI

少女は編み棒を持ちあげた。うす暗い部屋の隅で熱心に編み始める。編み棒を入れ、毛糸をくぐらせては棒を抜く。編み棒を入れ、毛糸をくぐらせては、また棒を抜く。少女の指はくるくると動き、編み棒は踊り続ける。少女はうつむいて一心に編み続ける。少女の傍らで毛糸玉が一つコロんとこころがった。

父親は少女を見ている、目を細め何かを思い出そうとしているように。そしてつぶやいた。

「あれは、母親に似ている。」

母親も編み物が好きだった。暇さえあれば編み棒を取りあげていた、同じ部屋の同じ場所……。母親が死んだのは、少女がまだ幼かった頃。床について起き上がれなくなるまで、母親はずっと編み棒を動かしていた。最後に仕上げた白い手袋。幼い娘へ、母親の最後の贈り物。

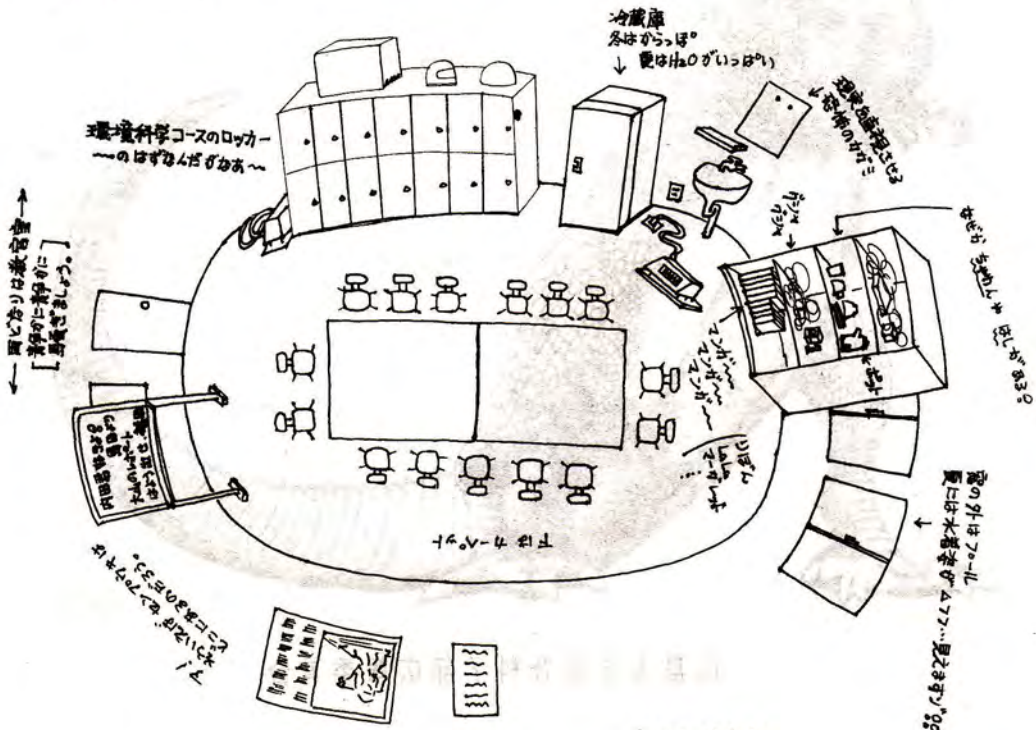
母親が灰になった日、幼い娘は父にしがみついて泣きじゃくった。泣いて泣いて、やがて疲れて眠ってしまった幼児は、その小さな両手で白い手袋をしっかりと握りしめていた。

それから十数年。幼かった娘も少女になった。誰も、娘の前では母親の話をしなかったのに、少女は生長とともに母親に似てくる。容姿はもとより、何気ない動作や言葉、性格までも、父親でさえ見違えそうになるくらいに……。その少女が一番大切にしているもの。あの白い手袋。母の愛がその一品にこもっているからだろうか、古びて黄ばんできたけれど、それは昔と少しも変わらず暖い。

外では雪が降り始めた。あたりは一層うす暗くなってきたが、少女はそれにも気づかず編み続ける。母の好きだった、そして娘も好きな編み物が、今、母と娘をつなぐ。

うす暗い部屋。真中にあるあかり取りの天窓からさし込むかすかな光だけが周囲を照らしている。そこで母そっくりに生長した娘は編み物をする。母親の姿をその背中にだぶらせながら――。

(52生 高岡)





# 目 次

【 要 目 】

## 特集Ⅰ 学生研究室からのたより

情報行動科学学生研究室	1
社会文化学生研究室	2
環境科学学生研究室（2年）	2
環境科学学生研究室（3年）	3
地域文化学生研究室	4

## シリーズ 学問のススメ

その2 比較地域学	米田 巖	5
その3 読書と文明	鈴木 修次	6

## 特集Ⅱ 大学祭奮闘記

総科の the アホ est は53生か！ 市中パレード	8
金魚すくい&もぐらたたき お嬢さんハレンチドッグ！ 11.4大学祭の反省	9
ファイアーストーム雑感 52生の総括 バザー願末記	10
休 演 宣 言	11

自由投稿 無題	絶対矛盾	13
” ダベリ・コンパ始末記	パトスの会	13
” 私の問題意識	松岡 勇	14
大学院地域研究研究科座談会から	編 集 部	15
学部の記録		16
編 集 後 記		17

表紙 環境科学3年 大橋健造